

アメリカ穀物協会 日本事務所 公式Facebookページ開設のお知らせ

このたび、アメリカ穀物協会日本事務所は公式Facebookページを開設いたしました。

タイムラインには、米国トウモロコシ、大麦、グレインソルガム産地の生育状況の画像や動画、日本事務所の活動や米国視察の様子、ワシントン本部からの最新情報などを掲載し、情報配信に努めてまいります。

既存の協会HPとも連動して運営しておりますので、Facebookアカウントをお持ちの方は、ぜひ本Facebookページにアクセスしていただき、気に入っていただけましたら、ページ上部の「いいね!」ボタンを押していただければ幸いです。皆様のたくさんいいね!をお

待ちしております。

2014年11月
アメリカ穀物協会 日本代表 浜本哲郎

公式Facebookページ

URL:<https://www.facebook.com/pages/US-Grains-Council-Japan/1435730046712151>

またはFacebook内で、**U.S. Grains Council Japan**と検索してください



米国におけるソルガム生産と技術の将来に関するセミナー

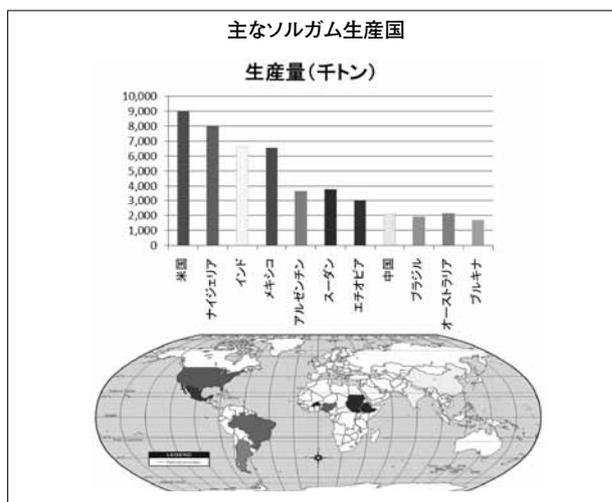
2014年10月9日、「米国におけるソルガム生産と技術の将来に関するセミナー」が開催されました。このセミナーでは、ソルガムの生産・需給と、米国でのソルガム生産と市場の現状と今後の展望について、米国人講師により講演が行われました。

ソルガム需給



アルバロ・コルデロ
アメリカ穀物協会グローバルトレード・マネージャー

ソルガムは世界全体で年間約8千万トン生産されていて、そのうち米国は約1千万トン弱を生産しています。生産国としては、米国のほか、ナイジェリア、インド、メキシコ、アルゼンチン、



スーダン、エチオピア、中国、ブラジル、オーストラリア、ブルキナファソなど、アフリカでの生産が多いことがわかります。一方で主な輸出国の2012/13年度の輸出量は、米国(214万トン)、アルゼンチン(306万トン)オーストラリア(143万トン)でしたが、2012/13年度は、アルゼンチン(年間100万トン)とオーストラリア(年間40万トン)の減少が予測されている一方で、米国からの輸出は前年度の倍増以上となる年間560万トンと予測されています。この米国からの輸出増は、中国の旺盛な購買力によって吸収されています。2013/14年度では、450万トンを輸入し、それまでの大きな輸入国であった日本とメキシコを合わせた総輸入量の約4倍を輸入しています。

ソルガム新品種開発による将来増産の可能性



フロレンティノ・ロペス
ソルガムチェックオフ・ディレクター

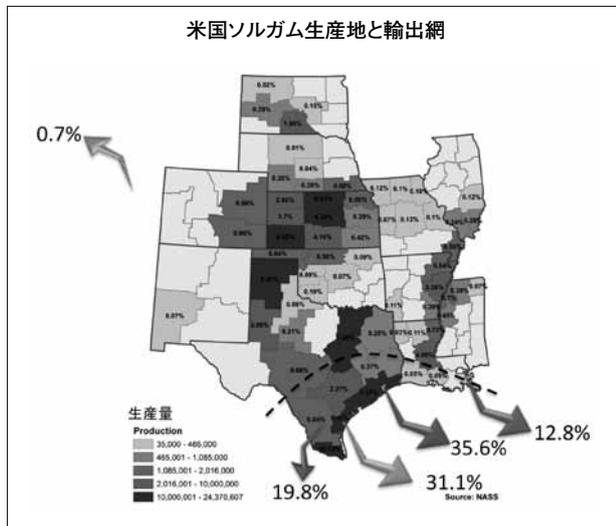
ソルガムに関する初期の記述は、北西アフリカのエジプトとスーダン国境近くのナプタ・プラヤでの考古学発掘で発見された紀元前8世紀のものとしてされています。ソルガムの栽培はアフリカ大陸全土に広がり、その過程で、エチオピアの高地からサヘルの半砂漠まで、幅広い環境へ適応するようになりました。5種類の異なる種のソルガムが生まれたのは、アフリカの多様な民族の移動によるものとされることが多く、その後、ソルガムはインドと中国にわたり、オーストラリアにまで達しました。米国での最初のソルガムに関する記録は、ベン・フランクリンによる、籐生産への利用についての1757年のものです。

米国でのソルガム生産量は近年減少傾向にありましたが、昨年から2年間は上昇に転じています。

米国でのソルガム生産と消費

単位 百万トン	2010/11	2011/12	2012/13	2013/14	2014/15
生産量	8.8	5.4 かんばつ	6.3 かんばつ	9.9	10.9
消費量	5.3	3.9	4.8	4.4	5.8
輸出	2.8	0.92	1.1	4.9	4.2
生産量の変化%		-38.6%	16.6%	57.1%	10.1%
					23.9%

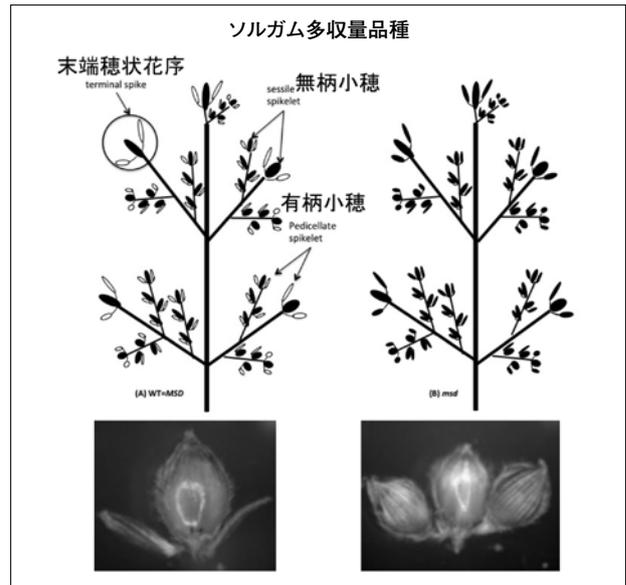
米国ソルガム生産地と輸出網



ソルガムの輸出は、テキサス州の港湾から行われるものが85%ですが、ミシシッピ川流域での生産も多く、約1割がガルフから輸出され

ています。

ソルガムは水資源の節約に貢献し、少ない量の水でより多くの穀物を得ることができます。また、かんばつや灌漑への懸念の増大からも、その重要性が増しています。家畜飼料としては、適切な加工と配合によって、価格の優位性を得ることができ、古くからの問題であったタンニンについても、その含量は低くなってきています。一方で、ソルガムは世界中で見れば食品原料としての利用が多いですが、最近米国では、全粒で消費ができるグルテンフリーの古来穀物としての利用が広まり始め、さらに、抗酸化物質を外皮に含有する有色ソルガムも、その健康ベネフィットや利用方法の研究開発がすすめられています。



このように重要性が増しているソルガムの増収に貢献する新しい多収量品種が、ソルガムチェックオフの出資する研究によって行われました。ソルガムチェックオフは産業界の要望により連邦法で定められた、チェックオフプログラムと呼ばれる穀物に関する研究や市場開拓を促進する米国政府農務省管轄のプログラムのひとつで、流通の最初の段階での価値に基づく一定額を生産者から徴収することによって運営されています。ソルガム生産者は、チェックオフプログラムに正味価値の0.6%の比率を拠出しています。その研究によって開発された多収量品種は、通常のソルガムが、花序の中に3つある小穂のうちの1つにしか結実しないのに対して、すべての小穂が結実するため、収量が3倍になるものです。その結果、各種子の重量は減るものの、総種子数は3倍となり、1本の穂(植物体)から収穫される総種子重量は約1.35倍でした。タンパク質含量をはじめとする栄養成分については、従来の品種と同じでした。この品種について、現在複数の種子会社がハイブリッド品種を開発中で、全米各地で圃場試験が行われています。その結果、種子重量が従来と同じ品種が商業化されると期待されています。

- 穂の総種子重量
 - 親種 = 77.88 g
 - 多収量変異種 = 105.16 g
- 穂の総種子数
 - 親種 = 2,688
 - 多収量変異種 = 9,794



米国農務省「世界農業需給予測(WASDE)」による 飼料穀物(トウモロコシ、ソルガム、大麦)需給概要の抜粋

2014年10月9日米国農務省発表の世界農業需給予測の米国産飼料穀物に関する部分の抜粋の参考和訳を以下に掲載いたします。WASDE のフルレポートについては(<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>)よりご確認ください。また、数値や内容については、原文のレポートのものが優先いたします。各項目の詳細、注釈についても原文をご参照ください。

米国の飼料穀物の2014/15年度予想生産量は、トウモロコシのさらに高くなった増産予測が、ソルガムの減少と大麦とオーツ麦の減少予測を差し引いてもさらに引き上げられています。低単収地域が出たものの、2.5ブッシェル/エーカー引き上げられた単収により補填され、トウモロコシ生産量は、8,000万ブッシェル高い、史上最高の144億7,500万ブッシェルと予測されています。トウモロコシの2014/15年度の供給量は、生産量の増加と9月の報告以降5,500万ブッシェル伸びた期首在庫により1億2,900万ブッシェル引き上げられ、157億3,600万ブッシェルと予想されています。輸入量は、カナダのトウモロコシ供

給が少ないことから500万ブッシェル引き下げられています。

米国産トウモロコシの2014/15年度の利用予測は、収穫量の増大、食肉生産の増大予測と低価格の展望に起因する飼料その他への利用予測の高まりから、5,000万ブッシェル引き上げられています。トウモロコシの期末在庫は7,900万ブッシェル増の20億8,100万ブッシェルに引き上げられています。今季を通じた農家平均価格の範囲は全体にブッシェルあたり10セント引き下げられ\$3.10-\$3.70と予測されています。

2014/15年度のソルガム供給は、期首在庫の増加はあったものの生産予測量が2,600万ブッシェル減少したために、1,200万ブッシェル引き下げられています。中国の旺盛な需要から、輸出は2,000万ブッシェル高く予測されています。輸出需要により、ソルガムのエタノール生産と国内家畜給餌での競争力が弱くなったため、ソルガムの国内利用予測は4,000万ブッシェル引き下げられています。ソルガムの通年農家平均価格はブッシェルあたり5セント引き下げられ\$2.95-\$3.55と予測されています。

トウモロコシ	2012/13	2013/14推定	2014/15予測(9月)	2014/15予測(10月)
作付面積(百万エーカー)	97.2	95.4	91.6	90.9
収穫面積(百万エーカー)	87.4	87.7	83.8	83.1
単収(ブッシェル)	123.4	158.8	171.7	174.2
期首在庫(百万ブッシェル)	989	821	1,181	1,236
生産量(百万ブッシェル)	10,780	13,925	14,395	14,475
輸入量(百万ブッシェル)	160	36	30	25
総供給量(百万ブッシェル)	11,929	14,782	15,607	15,736
飼料そのほか(百万ブッシェル)	4,339	5,125	5,325	5,375
食品、種子、産業用(百万ブッシェル)	6,039	6,504	6,530	6,530
エタノールと併産物用(百万ブッシェル)	4,641	5,130	5,125	5,125
総国内消費量(百万ブッシェル)	10,378	11,629	11,855	11,905
輸出量(百万ブッシェル)	730	1,917	1,750	1,750
総使用量(百万ブッシェル)	11,108	13,546	13,605	13,655
期末在庫(百万ブッシェル)	821	1,236	2,002	2,081
平均農家出荷価格(ドル/ブッシェル)	6.89	4.46	3.20 - 3.80	3.10 - 3.70

ソルガム	2012/13	2013/14推定	2014/15予測(9月)	2014/15予測(10月)
作付面積(百万エーカー)	6.2	8.1	7.5	7.2
収穫面積(百万エーカー)	5.0	6.5	6.4	6.2
単収(ブッシェル)	49.8	59.6	67.2	65.4
期首在庫(百万ブッシェル)	23	15	20	34
生産量(百万ブッシェル)	247	389	430	404
輸入量(百万ブッシェル)	10	0	0	0
総供給量(百万ブッシェル)	279	404	450	438
飼料そのほか(百万ブッシェル)	93	88	100	90
食品、種子、産業用(百万ブッシェル)	95	70	120	90
総国内消費量(百万ブッシェル)	188	158	220	180
輸出量(百万ブッシェル)	76	212	200	220
総使用量(百万ブッシェル)	264	370	420	400
期末在庫(百万ブッシェル)	15	34	30	38
平均農家出荷価格(ドル/ブッシェル)	6.33	4.28	3.00 - 3.60	2.95 - 3.55

大麦	2012/13	2013/14推定	2014/15予測(9月)	2014/15予測(10月)
作付面積(百万エーカー)	3.6	3.5	3.1	3
収穫面積(百万エーカー)	3.2	3	2.6	2.5
単収(ブッシェル)	67.9	71.3	73.2	73.4
期首在庫(百万ブッシェル)	60	80	82	82
生産量(百万ブッシェル)	220	217	193	180
輸入量(百万ブッシェル)	23	19	35	35
総供給量(百万ブッシェル)	304	316	310	297
飼料そのほか(百万ブッシェル)	59	65	65	65
食品、種子、産業用(百万ブッシェル)	155	155	154	154
総国内消費量(百万ブッシェル)	214	220	219	219
輸出量(百万ブッシェル)	9	14	10	10
総使用量(百万ブッシェル)	223	234	229	229
期末在庫(百万ブッシェル)	80	82	81	68
平均農家出荷価格(ドル/ブッシェル)	6.43	6.06	4.45 - 5.25	4.70 - 5.50

空飛ぶ豚と海を渡るトウモロコシ

アメリカ穀物協会から資料提供させて頂いた書籍、『空飛ぶ豚と海を渡るトウモロコシ』(三石誠司著、日経BPコンサルティング発行 ISBN978-4-901823-87-6)の本文を、少しずつご紹介いたします。

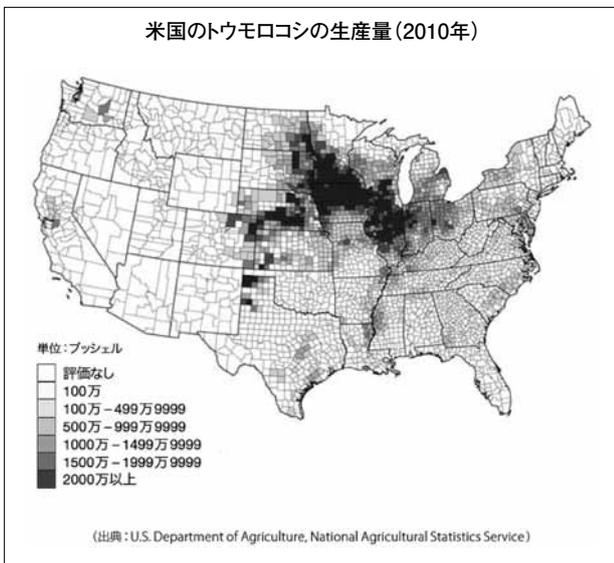
日本は年間1600万トンという世界最大量のトウモロコシを100%輸入する国です。そこには国や企業の都合ではなく、米国の生産者の「日本に届けたい」という思いが込められていました。私たちの食料、世界の食料、未来の食料について考えるヒントとなる書です

■全米トウモロコシ生産者協会

米国全体では約220万の農場があると言いましたが、ここでは米国中のトウモロコシ生産者で組織している全米トウモロコシ生産者協会(NCGA:National Corn Growers Association)について、簡単に説明しておきたいと思えます。この団体は文字どおり、トウモロコシの生産者がつくっている団体で、アイオワ州のウォルト・ゴーピンジャー(Walt Goepfing)さんというトウモロコシ生産者により1957年に設立されました。1984年に本部をミズーリ州セントルイスに移転しており、現在では本部のほかに、ワシントンDCにも正式なオフィスを持っています。トウモロコシ生産者の意向を直接米国の農政に反映させるための様々な活動も行っています。トウモロコシの生産地域としては、中西部のコーンベルト

地帯が有名ですが、実はトウモロコシは全米の各地で生産されています。右ページの図は米国農務省のデータですが、2010年にトウモロコシの生産量を郡(州の下の行政単位)ごとに示したものです。これを見ると、いわゆるコーンベルトと言われている地域がどこなのか、明確に分かると思います。地図の中央、最も濃い部分が全米のトウモロコシ生産量第1位のアイオワ州、その右側、ミシガン湖の南に広がる濃い部分がイリノイ州です。概ね地図の中心を通る形で上から下、つまり北から南へ縦の線を引いたとすると、その線から右側の地域の中で、東部ニューイングランドとフロリダ州を除くほとんどの州(25州)に、各州のトウモロコシ生産者協会が存在します。そして、州レベルの生産者協会がない州では生産者個人が全米トウモロコシ生産者協会のメンバーとして加入しており、現在のメンバー数は3万5000人を超えています。

(次号に続く)



ネットワークに関するご意見、
ご感想をお寄せ下さい。



U.S. GRAINS COUNCIL アメリカ穀物協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目2番20号
第3虎の門電気ビル11階

Tel: 03-6206-1041 Fax: 03-6205-4960

E-mail: grainsjp@gol.com

本部ホームページ(英語):<http://www.grains.org>
日本事務所ホームページ(日本語):<http://grainsjp.org/>